

平成 22 年度 病害虫発生予察 特殊報 第 1 号

病害虫名： ケブカノメイガ

Crocidolomia pavonana (Fabricius, 1794)

対 象： キャベツ, ブロッコリーほかアブラナ科作物

1. 特殊報の内容

ケブカノメイガの発生と被害を都下で初めて確認した(島しょ農林水産総合センター大島事業所)。

2. 発生経過

- (1) 本種はアフリカ, インド, 東南アジア, オーストラリアなど熱帯～亜熱帯に分布し, 東南アジアではアブラナ科野菜の重要害虫である。我が国における幼虫の発生は 1987 年に沖縄県石垣島で初めて確認された害虫で, 89 年以降, 沖縄県では定着して夏期のアブラナ科野菜の害虫となっている。その後, 90 年に静岡県, 99 年に兵庫県で発生が確認された。03～04 年には静岡県である程度の発生が認められている。東京都板橋区でも 99, 04 年に成虫採集記録があった。
- (2) 2010 年 9 月 27 日, 東京都大島町北部のブロッコリー圃場において幼虫の発生と被害を確認した。10 月 13 日には東京都御蔵島村のキャベツ圃場においても幼虫の発生と被害を確認した。
- (3) 現在までに, ブロッコリー, カリフラワー, キャベツ, ハボタン, ハクサイ, ダイコンで卵, 幼虫, 成虫の発生と被害を確認した。一部の圃場では多発生状態であった。また, 大島町での発生は大島全域で認められた。

3. 形態 (第1～4図;成虫・幼虫・卵)

- (1) 成虫は全体黄褐色で開長は約 25mm, 雄の前翅前縁に黒色の毛束がある。
- (2) 幼虫の体長は約 15mm に達する。頭部は淡褐色で体側は暗緑色, 各節の刺毛基板の黒点3対が目立つ。
- (3) 卵は数十個の淡黄色のうろこ状の卵塊として葉裏などに産み付けられる。

4. 生態

- (1) 幼虫は4齢を経過し葉上あるいは地表面で葉や土を巻きこんだ薄い繭を作り, その中で蛹化する。卵塊で産卵され, 孵化した幼虫は移動分散することなく, 集団のまま食害を続けることが多い。幼虫は少量の糸を出し, 若干葉を綴った内部や, 糸の下にすることが多い。
- (2) アブラナ科作物を広く寄主とするが, クレオメでも発生が確認されている。国外ではキュウリ, メロン, スイカなどウリ科, キク科のレタスなどでも発生している。

5. 被害 (第1・2・4図)

- (1) 数十頭の集団で食害するため発生部位は葉脈などを残して激しい食害痕となる。特にキャベツ, およびハボタン, ハクサイでは芯部に食害が集中して著しい被害となる。

6. 防除対策および注意

- (1) 静岡県では2月に幼虫が確認されているため, 冬期も幼虫で越冬すると思われる。
- (2) 本種に対する農薬登録はない。幼虫や卵は発見したら捕殺する。特にキャベツ等では芯部を好むため, 結球部もよく観察する。不明な害虫の発生については防除所や普及センターに連絡する。
- (3) アブラナ科雑草やクレオメなど発生源となる不要な植物を放置しない。防虫網により成虫の侵入を防ぐ。

7. 参考文献：吉松慎一 (1992) 植物防疫 46(10) : 22-24.

土井 誠ら (2005) 関東東山病害虫研究会報 52 : 89-94.



第1図 中齢～終齢幼虫とブロッコリー葉の被害（幼虫の吐出した糸）



第2図 綴った葉の中の幼虫



第3図 葉裏に産み付けられた卵塊



第4図 キャベツの芯部被害と幼虫および成虫